

新たな文学言語の研究に向けて

外国語学部中国語学科 外国人特任助教 賈海涛

この度は言語研究センターの一員としてお迎えいただき、心から感謝の意申し上げます。まずはご挨拶と自己紹介を兼ねて、私の専門分野と今後の研究についてお話させていただきます。

私の専門は、中国現代文学における文学言語の研究です。博士論文では、1990年代以降の上海文学を対象に、「上海ノスタルジア」、「蘇北叙述」と文学言語に関する考察を行いました。そうした上海文学の中で蓄積された「地域性」とその表象、つまり文化記号の構築、移住者像、現実的な言語環境などの外的な文脈と、語りのスタイル、文体や文学言語などの内的要素との相互作用という検討領域を設定しました。その分析を通じて、均質化が要請される「近代」という空間的・言語的・制度的構造に対して批判・抵抗する新たな「地域性」の可能性を究明することを目指しました。

特に、小説における文学言語（上海語など）を分析するために、「版本批評」という方法論を採用します。この方法は、作品の異なる版本間の字句の異同を整理し、その修正理由や特徴を明らかにすることを目的としています。このアプローチにより、通常は視覚的に識別が困難な漢字表記の方言語彙でも、特定が可能となり、文学言語に関する作家の修正痕跡とその言語意識を考察することができます。

博士段階の研究で得られた成果を土台として、今後の研究は以下の二つの方向に進める予定です。

一つ目は、博士研究で取り組んだ上海文学における書記された〈方言〉と新たな「地域性」という課題をさらに深掘りしていきます。中国近現代文学における〈呉語〉使用の歴史を遡ると、清末

の韓邦慶による長編小説『海上花列伝』（1894）に行き着きます。これとこれまでの研究対象であり、同じく〈呉語〉で創作された『繁花』（2012）との比較研究を行います。これらの代表的な方言小説に見られる豊富なパラテキストを整理・分析した上で、その特徴と制作者の認識、小説本文との相互作用などを明らかにします。そして、近代性による思想的制約を受けつつも如何にして言語的差異を保っているかについて考察します。

二つ目は、上海文学を足がかりに、文学言語と言語思想史に関する一般化した研究を展開します。近代以降の国民国家の文脈で、書写言語／文学言語がどのような思想的な背景のもとで議論され、定着していったのかを、特定の知識人や文学的な実践を通じて時代を横断して考察します。また、従来の国民国家を単位とする文学史を逆転して、世界各地の華語創作を対象とする「サイノフォン研究」の知見を踏まえ、日本におけるサイノフォン理論の構築に挑戦します。より広い視点から文学言語の多様性を再考し、言語や文化の中心主義から脱却しようとする研究を目指します。

最後に、今年度は言語研究センターの新たな一員として、センター叢書の出版助成をいただき、博士論文の出版が実現したことに深く感謝申し上げます。研究者として、まだ駆け出しの身ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。